岡山県立短期大学紀要　33巻2号55～66頁（1990）

子供スポーツ集団の内部構造に関する研究

犬　飼　義　秀

Ⅰ．研究の目的

社会にはさまざまな集団があるが，子どもの発達からみてそこには一定の系列がある。いわゆる「通過集団」[1] と呼ばれる社会集団がそれである。子どもが所属する社会集団は，家族集団・学校集団・仲間集団である。

これらの集団はそれぞれ異なった構造と機能を持ち，全体社会の文化に規定されつつも，その方向と強度と性質とを変容させて独自の個性と下位文化を形成している。子どもはこうした社会集団に所属することによって，その社会集団の行動特性を学習し，成員性を獲得して，それぞれの集団に応じた社会化を経験するのである。

ここで問題としている子どもとは，おおよそ小学校の中頃から始まる少年時代を指すものであるが，この少年時代は，発達段階から言えば，精神的自律の達成を課せられた時期である。[2] それまでは家族の中での生活が中心であり，親や保護者に全面的に依存していたのが，成長とともに子どもは仲間と独自の世界を形成して活動するようになる。

子どもが大人から独立して自己の世界を形成してゆく際，子どもは大人の規制や庇護から個人として離脱してゆくことはまだできない。自己を支える十分な力の自覚をまだ持てない子どもたちは，まず「集団として」大人から独立しようとする。

社会的発達という点からみた場合，少年時代の特徴は何よりも仲間集団への帰属にあり，仲間集団における社会化にあると言ってよい。[3]

ところが，こうした社会化機能を持つ仲間集団は，その集団規模が縮小し，異年令メンバーの構成から同年令メンバーによる集団へと移行しているのが特徴である。[4] こうした仲間集団の脆弱化およびその変容は，子どもの遊び文化の変容，塾などによる自由時間の減少との関係が大きい。こうした状況の中で，子どもの遊び文化の中心はスポーツに移り，仲間集団と呼べるものが組織的なスポーツ集団である現在，子どものスポーツ集団の持つ意味は大きい。1962年に発足した日本スポーツ少年団は，今日では100万人以上のスポーツ組織に成長している。

ところが，組織的スポーツの発展に伴って中途で脱退するドロップアウト現象も増大している。このドロップアウトの原因として，競争性の過度な強調，強度の勝利志向，厳しすぎる練習，コーチングの問題等が指摘されている。[5)6)] こうした指導者等の大人の問題に加え，集団内の人間関係にその原因を指摘する研究もある。[7)8)]

そこで本研究は，スポーツ集団における内部構造を対人関係の次元に焦点をあて，集団の持つ社会的機能について考察した。

Ⅱ．研究の方法

1．調査対象

岡山市立Ⅰ小学校ソフトボール少年団（昭和63年全国大会出場）6年生団員20名。

2．調査時期

昭和63年4月～11月

3．調査方法

週2～3回の練習および試合の参与観察，3回にわたるソシオメトリック・テストなどの面接調査。

4．分析の視点

1）　メンバーの相互選択によるソシオメトリックな構造について調べ，スポーツ集団の中でのレギュラー同士の関係，非レギュラー同士の関係，レギュラーと非レギュラーの関係について明らかにする。

2）　メンバーの地位分化の仕組みである地位構造について，どの成員が他の成員にどの程度影響を及ぼすかを調べ，スポーツ集団内の地位ランクの様相を明

らかにする。そして，レギュラー内での地位ランクと非レギュラー内での地位ランクに違いが見られるかどうかを確認した上で，地位ランクが何に影響され，何を基準に決定されるのかを明らかにする。

3) 地位を機能的に捉えることにより，集団内の役割の仕組みを調べ，集団の維持・存続のために必要な役割としてのリーダーシップ機能について検討する。さらにレギュラーと非レギュラーにより支持されるリーダーシップの機能には違いがあるかどうかについて明らかにする。

4) 以上の分析から，子供の発達にとってスポーツ集団の持つ意味とその問題点について検討を加える。

Ⅲ．結果と考察

1．メンバー間の関係

1) クラス内での関係

表1は，スポーツ集団成員が各クラス内でいかなる人間関係にあるかを示したものである。◎は，互いに相手をクラス内で3分の1以内にノミネートしている強い関係であり，○は，2分の1以内にノミネートしている関係を表わすものである。

こうしたクラス内の関係をまとめると以下のようになる。

6年1組（レギュラー5名）
6／10（5名全員の相互選択が成立すれば10組できるが，6組の関係があったことを示す）

6年2組（レギュラー1名・非レギュラー3名）
4／6（レギュラー・非レギュラー間2組）（非レギュラー同士2組）

6年3組（非レギュラー5名）
6／10

6年4組（レギュラー3名・非レギュラー3名）
8／15（レギュラー同士2組）
（レギュラー・非レギュラー間4組）（非レギュラー同士2組）

クラス内における好きな友達として，スポーツ集団成員がかなり上位にあることが分かる。こうした関係は，各クラスともすべての相互選択が成立した際の可能数の6割前後となっている。具体的には，1組60%，2組67%，3組60%，4組53%である。しかし，レギュラー・非レギュラーという立場からの構成は，クラスによってかなり異なりを見せる。1組のようにレギュラーのみのクラスや，2組・4組のように両者が一緒のクラスもある。異なる構成を，全体としてレギュ

表1．クラスごとのメンバーの関係

	番号	⑤	③	①	②	④
六年一組	⑤			◎	◎	◎
	③					
	①	◎			◎	◎
	②	◎		◎		◎
	④	◎		◎	◎	

	番号	19	14	⑨	16
六年二組	19				○
	14			◎	○
	⑨		◎		◎
	16	○	○	◎	

	番号	12	17	15	20	11
六年三組	12		◎	◎		◎
	17	◎		◎		◎
	15	◎	◎			◎
	20					
	11	◎	◎	◎		

	番号	10	⑥	18	13	⑧	⑦
六年四組	10		◎	◎	◎		
	⑥	◎				◎	
	18	◎				○	○
	13	◎				◎	
	⑧		◎	○	◎		○
	⑦			○		○	

◎ ＝ 強い関係
○ ＝ 弱い関係
○の数字はレギュラー

ラー同士の相互選択から見ると８あることが分かる。この８は，６年１組における６と６年４組における２である。同様に，レギュラーと非レギュラーの相互選択は６となる（２組で２・４組で４）。非レギュラー同士の相互選択は10である（２組で２，３組で６，４組で２）。これを相互選択可能数にしめる比率で見ると，レギュラー同士61.5％，レギュラーと非レギュラー50％，非レギュラー同士62.5％となる。チーム内においてレギュラーであったり非レギュラーであっても，クラスではチームメイトは重要で好きな友達とされていることが分かる。

こうした関係が，チームという集団内でどのように変化するかについて検討してみる。

2）チーム内での関係

表２は，チーム内における相互選択について示した

表２．チーム内における関係

		六年一組					六年二組				六年三組					六年四組					
	番号	⑤	③	①	②	④	19	14	⑨	16	12	17	15	20	11	10	⑥	18	13	⑧	⑦
六年一組	⑤		○	◎	◎											○				○	◎
	③	○				◎											○			◎	
	①	◎			◎												◎			◎	
	②	◎		◎		◎															
	④		◎		◎															○	
六年二組	19																				
	14												◎								
	⑨										◎								◎		
	16																		◎		
六年三組	12								◎				◎		◎				○		
	17																				
	15							◎			◎				◎						
	20																				
	11										◎		◎				◎			◎	◎
六年四組	10	○																		○	
	⑥		○	◎											◎						
	18																				
	13								◎	◎										○	
	⑧	○	◎	◎		○									◎	○			○		
	⑦	◎													◎						

◎　＝　強い関係
○　＝　弱い関係
○の数字はレギュラー

ものである。表1の同一クラスで相互選択された関係が消滅したり，同一クラス内で新たな関係が生まれている。

6年1組では，相互選択数が6となっている。これは表1の選択数と同じである。しかし成員個別の関係で見ると，表1で確認された①と④・④と⑤の関係が消え，新たに③と④・③と⑤が出現して相殺され6となっている。6年2組においては，クラス選択で4あったものがチーム内選択では0となっている。同様に6年3組・4組においても，6が3に8が2に減少している。このように各クラス内での相互選択数24から，チーム内での同一クラスメートの選択数は11とおおよそ半減している。

チーム内での同一クラスメートの相互選択可能数にしめる比率では，レギュラー同士46.2%，レギュラーと非レギュラー16.7%，非レギュラー同士18.8%とな

表3．チーム内における関係（レギュラー・非レギュラー）

		レギュラー									相互選択数		非レギュラー										
	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	①		◎			◎	◎		◎		4												
	②	◎			◎	◎					3												
	③				◎	○	○		◎		4												
	④		◎	◎					○		3												
	⑤	◎	◎	○				◎	○		5	1	○										
	⑥	◎		○							2	1		◎									
	⑦					◎					1	1		◎									
	⑧		◎	◎	○	○					4	3	○	◎		○							
	⑨											2			◎	◎							
非レギュラー	10					○			○		2												
	11						◎	◎	◎		3	2			◎			◎					
	12									◎	1	3		◎		○		◎					
	13								○	◎	2	2			○				◎				
	14											1						◎					
	15											3		◎	◎		◎						
	16											1				◎							
	17																						
	18																						
	19																						
	20																						

◎ ＝ 強い関係
○ ＝ 弱い関係

る。この数字は，表1のクラス内におけるチームメイトの相互選択率に比べ，レギュラーと非レギュラーおよび非レギュラー同士の関係が弱くなっていることを示している。

このようにレギュラー同士，レギュラーと非レギュラーさらに非レギュラー同士の関係が，クラスの枠を離れチーム全体として見ればどのようになるのであろうか。

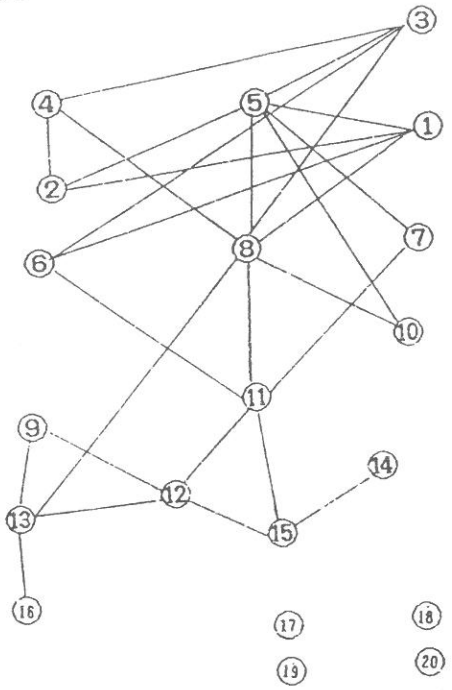
表3は，チーム内における関係について示している。上位9名がレギュラーであり，11名が非レギュラーである。表の上段部にレギュラー同士の関係，中段にレギュラーと非レギュラーの関係，右下段に非レギュラーの関係が示されている。

まずレギュラー同士の相互選択数は13あり，レギュラーと非レギュラーにおいて8，非レギュラー同士では6である。これを相互選択可能数にしめる比率にすると，レギュラー同士36.0%，レギュラーと非レギュラー8.1%，非レギュラー同士10.9%となる。これを表1・表2のクラス内での数字と比較すると，すべてにおいてかなりの減少である。特に，レギュラーと非レギュラー，非レギュラー同士の関係が弱いことが指摘できる。

こうした対人関係をさらに図として表わしたのが，次のソシオグラムである。

図1．チーム内のソシオグラム

図1



ソシオグラムでは，上半分にレギュラー群のネットワークが，下の部分に非レギュラーの関係が示されている。レギュラーで非レギュラーと相互選択の関係にある者は⑤・⑥・⑦・⑧・⑨の5名である。⑨はレギュラーとの関係は全くなく，⑤・⑥・⑦はそれぞれ非レギュラーの1名としか関係がない。また12・13は他のレギュラーから孤立して⑨とのみ相互選択の関係にある。つまりレギュラーの⑨は非レギュラーと，非レギュラーの10はレギュラーとのみの関係にある。集団全体として，レギュラーと非レギュラーを結ぶネットワークは，⑧と11がパイプ役としてつながっている。

また，非レギュラー11名のうち17・18・19・20は，他の成員から孤立している。

スポーツ集団における子どもの人間関係から見ると，その構造はレギュラーと非レギュラーという形での二層分化の構造になっていると思われる。

さらにこうした構造が，スポーツ集団の具体的活動において，どのようになっているかについて考察する。

3) 地位構造と勢力関係

地位構造とは地位の分化の仕組みであり，この地位の分化は勢力関係の視点から捉えることができる。[9] 勢力とは，所与の方向に向けて行為するように，他の仲間に影響を及ぼす能力である。そして，ここでは評定法を用いて，仲間集団の各成員間の勢力関係を捉えようとした。仲間集団の各成員がどの程度他の仲間に影響を及ぼす能力を持っているかの順位を，すべての成員に評定させて各成員を序列づけ，その順位を仲間集団内における各成員の地位と考えた。そして，次の質問項目をインフォーマルな面接によって行った。

(1) リーダーは誰か。その次のリーダーは誰か。(以下反復)。〔リーダー〕

(2) 誰が一番よく命令するか。その次は誰か。(以下反復)。〔命令〕

(3) あなたは誰の言うことを一番よく聞くか。その次は誰か。(以下反復)。〔効果〕

「命令」を順位評定の基準としたのは，成員間の差異を測定するためには，理解容易な直接的かつ単一の指標が要求されたからである。そして命令しても，それが実際に仲間に影響を及ぼさなければ，勢力とは言えないので，質問項目(3)において命令の効果を把握し，影響力の順位を確認した。

表4．リーダーの順位

		レギュラー									非レギュラー										
	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	①		5	4		3	2		1												
	②	2			5	3	1				4										
	③	2	4		3	5			1												
	④	5	3	2					1	4											
	⑤		3				2	5	1	4											
	C⑥	2	1						5			3							4		
	⑦		5		4	2	1		3												
	⑧	4	2		3	1				5											
	⑨		5			4						2	1	3							
非レギュラー	10	3		5		1	4		2												
	11					3	1	2													
	12									1		3		2							
	13			2	3		4		1	5											
	14	2	4			3	1	5													
	15									1											
	16		2	5		4				1		3									
	17				5		1	3	2	4											
	18	2			4		3		1	5											
	19	4	2				1	5	3												
	20	4					3		2			5	1								

Cはキャプテン

表5．命令の順位

		レギュラー									非レギュラー										
	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	①			5		4	2		1	3											
	②						3	2	1												
	③				4		2	3	1	5											
	④	4						2	1			3					5				
	⑤			3			2		1												
	C⑥		2		5			3	1				4								
	⑦			5	4		2		1			3									
	⑧	4		1	2	3		5													
	⑨						2.	3	1												
非レギュラー	10			4	3		5		1	2											
	11								1												
	12							2		1											
	13			2			3		1												
	14				4		3	2	1												
	15								1												
	16			4			2		1	3											
	17								1												
	18	3	5		4				1	2											
	19			5			4		1	2		3									
	20								1												

結果は，表4～表6に示してある。まず，成員による順位評定の平均を成員間の一致した順位評定と見なした。そして，その順位を各成員の序列的地位として位置づけると，各表の下欄の順位のように序列づけることが出来る。これを分かり易く整理したのが，表7～表9の「リーダー」，「命令」，「効果」の順位である。これらの順位の平均を各成員の集団における勢力順位，つまり「地位」と考えて序列づけると，表中の「地位ランク」の欄のような順位になる。

全員によって順位化された地位のランクでは，上位

表6．効果の順位

		レギュラー									非レギュラー										
	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	①		3		4	5	2		1												
	②	2			4	3	1	5													
	③	3			2				1												
	④		4	3			1		2												
	⑤						1	3	2	4											
	C⑥	2	1						3												
	⑦	4		5		3	2		1												
	⑧		1		4		3	2		5											
	⑨						3		4			2	1	5							
非レギュラー	10				5		1	4	2	3											
	11						3			2			1								
	12									1		2		3							
	13						2		1	3											
	14	1	5			2	3			4											
	15						1														
	16	3	2			4		5				1									
	17					4	2			1		3									
	18	2			3		4			1											
	19	1																			
	20						2		3				1								

表7．メンバーの順位（全体）

		レギュラー									非レギュラー										
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
全体	リーダーの順位	4	6	8	9	3	2	10	1	7		5									
	命令の順位			6	5		4	3	1	2											
	効果の順位	4	5		7	6	2		1	3											
	地位のランク	4	5	8	7	6	2	9	1	3											
	技能の順位	6	4	7	8	9	3	2	1	5											

表8．メンバーの順位（レギュラー）

		レギュラー									非レギュラー										
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	リーダーの順位	4	5		6	3	1		2	7											
	命令の順位			4	4		2	3	1												
	効果の順位	3			4	5	1		2												
	地位のランク	3			4	5	1		2												
	技能の順位	5	3	7	9	8	4	2	1	6											

表9．メンバーの順位（非レギュラー）

		レギュラー									非レギュラー										
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
非レギュラー	リーダーの順位	6	3	9	9	4	2	8	1	5		7									
	命令の順位			5	4		3		1	2											
	効果の順位	1				5	4		2	3											
	地位のランク	1				5	4		2	3											
	技能の順位	6	5	7	8	9	3	1	2	4											

者として⑧が1位にランクされ，以下⑥・⑨・①となっている。⑧は，エースピッチャーであり主軸打者であることからすると，「地位のランク」の決定に活動の技能・知識が影響していると考えられる。次に，⑥はキャプテンというオーソライズされた地位付与により，上位にランクされていると言える。⑨・①は，技能・知識の順位においては下位者であるが，地位のランクでは上位にある。この2名が上位にランクされる背景には，レギュラー・非レギュラーという2つの層化構造によって集団が成立しているためだと思われる。つまり，レギュラー・非レギュラーの両方にわたって共通に地位ランクの高い者と，一方にだけ上位にランクされる者が存在することである。

具体的には表8に示すように，レギュラー内での地位のランクでは，⑥のキャプテンが1位になり⑧が2位に逆転している。また①が3位に，全体で3位の⑨はレギュラー内での地位ランクでは後退している。⑨は図1のソシオグラム・表9より非レギュラーとの関係が強く，非レギュラー内で地位ランクの高い者であると言える。①がレギュラー間・非レギュラー間で上位にランクされる背景には，命令はしなくても効果の高い者であるためだと思われる。

集団における地位ランクは，レギュラー内では，チームの持つ課題である勝利を志向するためや練習を進める上で必要な者が上位にいる。一方，人間関係の弱い非レギュラー間では，個人との関係で地位ランクが決定していると考えられる。

4）役割構造とリーダーシップ機能

地位ランクにおける上位者層については明らかにされたが，しかし彼らが集団においてどのような役割を持ち，リーダーシップ機能を果たしているかは分からない。

そこで，集団のリーダーシップ機能に関する以下の質問を用意し，全員にノミネートさせた。

(4) 皆の言うことをうまくまとめるのは誰々か。〔統合〕

(5) ルールを守らない人に注意をするのは誰々か。〔注意〕

(6) チームの中で，やさしくて親切なのは誰々か。〔親切〕

回答は無制限とした。

小集団のリーダーシップ機能には，集団目標達成の機能と集団の統一維持の機能との二つがあるとされている。[10] 質問項目(5)は集団目標達成機能に関する基準であり，(4)・(6)は集団の統一維持機能に関する基準である。結果は，表10～表12に示している。そしてこれらの結果をそれぞれ一覧表にまとめたのが表13～表15である。

表13は，全体における統合・注意・親切の合計の多い者から順位づけされている。この順位でも，⑧・⑥は地位ランク同様に上位者である。このことは，地位ランクとリーダーシップの順位との間に，強い関連があることを示唆している。それはスピアマンの相関係数（$\rho=0.87$）が高いことからも分かる。この両者の高い相関関係は，表14・表15のレギュラー間・非レギュラー間においても見られる。ここで問題とされることは，こうした上位者層にどのような役割分化が見られ，リーダーとしての機能を果たしているかである。表13の全体では，⑧・⑥は他の成員に比べ注意が高いことである。このことは二人が，集団全体にとっての目標達成機能に関する基準において表われ，「課題リーダー」として位置づけられていると考えられる。特にレギュラーの間では，課題達成機能が統一維持機能[11]より重視されている。これに対し，統合・親切といった統一維持機能の高い者は，⑧・⑥に加え①と⑨である。表17のレギュラー間においては，統一維持機能に関する社会的－情緒的リーダーも⑧・⑥であることから，この二人はレギュラーの中では課題リーダーであると同時に社会－情緒的リーダーでもある。しかし，この両者の間には若干の違いが見られる。それは⑧が課題リーダーとして，⑥が社会－情緒的リーダーとしてレギュラー内での役割を果たしていることである。

一方非レギュラー間における特徴は，リーダーシップ機能として社会－情緒的機能が重要視されていることである。特に，非レギュラーの親切の項目について言えば，①が1位・⑨が2位となっている。この親切の上位5名と，表12の地位ランクの順位の相関係数は0.95と非常に高い。このことは非レギュラーにとって，やさしく・親切な者をリーダーあるいは地位の上位にランクづけていることを示すものである。非レギュラーにとっては，やさしくて親切であることがチームメイトの選択に，いかに大きな基準となるものかを示すものである。

表10. チームにおけるまとめ役（統合）について

		レギュラー									非レギュラー										
	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	①						●		●												
	②				●		●														
	③				●		●														
	④						●		●												
	⑤						●		●			●									
	C⑥	●							●												
	⑦						●		●												
	⑧						●														
	⑨								●												
非レギュラー	10	●					●		●												
	11						●														
	12									●											
	13						●		●												
	14						●			●											
	15								●												
	16						●		●	●											
	17								●												
	18	●					●		●												
	19	●							●												
	20								●												
合計		4			2		13		14	3		1									

表11. チーム内において注意する人

		レギュラー									非レギュラー										
	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	①		●				●		●												
	②				●		●		●												
	③				●			●	●												
	④		●				●		●												
	⑤			●			●		●												
	⑥								●												
	⑦						●		●												
	⑧				●		●														
	⑨						●		●												
非レギュラー	10						●		●												
	11						●		●												
	12									●											
	13								●												
	14								●												
	15								●												
	16						●		●												
	17							●	●												
	18						●		●												
	19						●														
	20						●														
合計			2	1	3		13	2	16	1											

表12. チームでやさしく親切な人

		レギュラー									非レギュラー										
	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	①						●														
	②	●				●	●														
	③				●	●	●														
	④	●		●			●														
	⑤	●	●						●		●	●									
	⑥	●			●							●				●					
	⑦																				
	⑧			●		●				●											
	⑨												●								
非レギュラー	10	●				●			●												
	11						●						●			●					
	12									●											
	13					●															
	14	●																			
	15									●		●	●		●						
	16								●	●		●		●							
	17									●											
	18	●			●				●		●										
	19	●	●																		
	20	●																			
合計		9	2	2	3	5	5		4	5	2	4	3	1	1	2					

表13. リーダーシップ機能（全体）

		レギュラー									非レギュラー										
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
全体	統合	4			2		13		14	3		1									
	注意		2	1	3		13	2	16	1											
	親切	9	2	2	3	5	5		4	5	2	4	3	1	1	2					
	合計	13	4	3	8	5	31	2	34	9	2	5	3	1	1	2					
	順位	3	8	9	5	6	2	10	1	4		6									

表14. リーダーシップ機能（レギュラー）

		レギュラー									非レギュラー										
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
レギュラー	統合	1			2		7		6			1									
	注意		2	1	3		7	1	8												
	親切	4	1	2	2	3	4		1	1	1	2	1			1					
	合計	5	3	3	7	3	18	1	15	1	1	3	1			1					
	順位	4	5	5	3	5	1		2			5									

表15. リーダーシップ機能（非レギュラー）

		レギュラー									非レギュラー										
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
非レギュラー	統合	3					6		8	3											
	注意						6	1	8	1											
	親切	5	1		1	2	1		3	4	1	2	2	1	1	1					
	合計	8	1		1	2	13	1	19	8	1	2	2	1	1	1					
	順位	3				5	2		1	3		5	5								

Ⅳ．要約と結論

子どものスポーツ集団を対象として，その内部構造と社会的機能について分析した結果，次のことが明らかになった。

1. クラス内における好きな友達として，チームメイトは上位に選択されている。レギュラー同士，レギュラー－非レギュラー，非レギュラー同士の相互選択において，その差は認められない。

2. しかし，チーム内における相互選択では，クラス内における関係とは異なる様相を示す。それは，レギュラーはレギュラーを，非レギュラーは非レギュラーを選択するという，スポーツ集団における層化した人間関係の構造が見られる。

   さらに，レギュラー同士の人間関係は強いが，非レギュラー同士の関係は弱い。特に，二層分化したレギュラーと非レギュラーを結ぶ関係が弱いことは，集団全体の課題達成や統一維持にとって問題である。

3. レギュラー・非レギュラーという層化した人間関係の構造は，地位構造・勢力関係にも反映されている。

   レギュラー間における地位ランクは，活動の技能・知識水準の高い者とキャプテンというオーソライズされた地位付与者が上位にある。このことは，レギュラー成員は，活動や勝利という課題達成の遂行者を上位にランクしていることがわかる。

   一方，非レギュラー間の地位ランクは，レギュラーで自分たちとの人間関係の強い者が上位にランクされている。つまり，個人との関係で地位ランクが決定している。

4. 地位ランクの上位者は，スポーツ集団におけるリーダーでもある。リーダーシップ機能には，集団の目標達成機能と統一維持機能とが見られる。

   レギュラー間においては課題達成機能が，非レギュラー間では統一維持機能がより重要視されている。特に，非レギュラーは，やさしく・親切な成員をリーダーの選択基準にしている。

本研究は昭和63年度文部省科学研究費「奨励研究（A）」（課題番号63780198）の補助を受けたものである。

参　考　文　献

1）日本教育社会学会「通過集団」，『新教育社会学辞典』，東洋館出版，1986，pp. 555.
2）坂元忠芳「少年期における発達と教育」，『子供の発達と教育５』，岩波書店，1979，pp. 3－7
3）菊地幸子「仲間集団における社会化」『人間形成の社会学』，福村出版，1983，pp. 35－39.
4）丹羽劭昭「児童の屋外遊び集団の変容および遊びとパーソナリティ」『子どものスポーツを考える』，体育・スポーツ社会学研究６，道和書院，1986，pp. 56－57
5）Orlick, K. D. The athletic drop out : A high price for inefficiency. CAHPER 41 : pp. 21－27, 1974
6）波多野義郎，中村精男『運動ぎらいの生成機序に関する事例研究』，体育学研究．1981，pp. 177－187.
7）海老原修「組織的スポーツからのドロップアウトに関する研究」，『現代スポーツを考える』，体育・スポーツ社会学研究７，1988，道和書院，pp. 107－129
8）根本朗生『運動部からのドロップアウトの社会的要因に関する研究』，昭和59年度筑波大学修士論文，1985.
9）佐々木薫「集団と個人」，『集団行動の心理学』，1987，有斐閣，pp. 116－126.
10）大橋幸「リーダーシップ」，『集団・組織・リーダーシップ』，1962，培風館，p325.
11）前掲書10）pp. 326－329.

平成元年12月22日受付
平成２年１月11日受理